

1. 日本藻類学会第22回大会

1998年3月25日～27日、筑波大学下田臨海実験センターおよび下田東急ホテル（下田市）において第22回日本藻類学会大会を開催した。大会会長は横濱康繼氏（筑波大学）で、参加者222名、講演数は85題（うち展示発表は31題）におよんだ。

1日目に編集委員会と評議員会が筑波大学下田臨海実験センターで開かれた後、2日目からの講演は実験センター近くの小高い丘の上に立つ下田東急ホテルでおこなわれた。講演数が多かったため、A、B両会場にわかれて口頭発表がおこなわれた。2日目午後、A会場で総会を開催した後、夕刻から同会場で懇親会をおこなった。ホテルの調理室より運ばれる質、量共に申し分のない料理と相まって、懇親会は大変和やかにおこなわれた。参加者は165名であった。開始約1時間後から展示発表の説明が隣接のB会場でおこなわれた。

懇親会のリラックスした雰囲気の中、自由に討論するという形式であったが、この藻類学会初の試みは多くの参加者に好評のようであった。大会の運営に当たっては、横濱大会会長を始め青木優和氏ほか多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

第22回大会参加者名簿

（あいうえお順、敬称略）：青木優和、青田徹、赤池章一、秋野秀樹、鯉坂哲朗、阿部英治、阿部信一郎、新井章吾、有賀祐勝、安藤亘、飯田勇次、飯間雅文、五十嵐聖貴、猪川倫好、池原宏二、石川依久子、石橋清秀、石丸八寿子、磯田春奈、出井雅彦、伊藤泰二、稲岡心、井上勲、今泉真知子、岩佐朋美、岩滝光儀、岩本浩二、植田邦彦、江端弘樹、恵良田知樹、恵良田真由美、大谷修司、大谷真由美、大塚重人、大野正夫、大山温美、岡崎恵視、岡本典子、奥田一雄、奥山牧子、尾崎紀昭、小野勝、加賀谷美幸、葛西ハルエ、加崎英男、菓子野康浩、片岡博尚、片山舒康、加藤法子、金井塚恭裕、神谷充伸、川井浩史、川合幸恵、川嶋昭二、川野辺英昭、神林友広、菊池則雄、北村美香子、北山太樹、北山雅彦、金尚吉、金南吉、金高卓二、窪田茂樹、熊野茂、倉島彰、栗原暁、桑野和可、高亜輝、河野繁貴、小亀一弘、小島恵美、小林敦、小林功、Gontcharov, A., 近藤貴靖、斎藤順子、斎藤岳由、斎藤宗勝、坂牛真司、坂西芳彦、櫻井納美、佐藤健、佐藤征弥、澤田威、柴田渉、島桂子、島田智、Josef Elster、白岩善博、

白江麻貴、菅原洋子、鈴木俊一、鈴木秀和、須谷昌之、須之内千代、関口弘志、関田諭子、芹澤如比古、Dine Naw Moat War、高島季子、高津翼、高野克、高橋昭善、瀧谷明朗、竹中裕行、太斎彰浩、多田智子、田中克彦、田中貞子、田中次郎、田中博、田中義幸、谷雅喜、種倉俊之、玉田知子、池恩變、辻彰洋、辻村茂男、津田藤典、都筑幹夫、鶴岡英作、寺田竜太、寺脇利信、当真武、徳田拡士、長浦一博、長島秀行、長島泰子、中野武登、中原美保、中村恵理子、仲矢史雄、中山剛、南雲保、名畑進一、鍋島由美、西澤一俊、二宮早由子、野崎久義、野田三千代、能登谷正浩、野畑英、野村智子、野呂忠秀、長谷川和清、畠中芳郎、幡野恭子、波多野洋子、花本悦子、羽生田岳昭、馬場将輔、濱田仁、林田文郎、原朋之、原慶明、半田信司、坂東忠司、樋口澄男、平岡雅規、平田徹、広木幹也、広瀬紀一、福島博、福田廣一、藤江教隆、藤田大介、藤原祥子、藤原宗弘、保科亮、堀口健雄、堀輝三、本多大輔、本多正樹、前川行幸、松永茂、松村知明、松山和世、真山茂樹、丸山晃、三浦昭雄、水田浩之、三隅昌朗、御園生拓、箕浦一彰、宮崎勤、宮下聡記、宮下英明、宮田昌彦、宮地和幸、宮地重遠、宮村新一、宮本奈保、村岡大祐、村上明男、村上裕重、村瀬昇、森田詠子、守屋真由美、矢部和夫、山賀賢一、山岸高旺、山岸幸正、山下尚之、巖興洪、湯浅健、柳宗秀、楊仕元、横濱康繼、横山亜紀子、吉岡怜美、吉崎誠、吉田吾郎、吉田忠生、吉永一男、依田真里、李仁輝、和田幸子、渡辺哲、渡辺信、渡部雅博、和田正徳

2. 編集委員会・評議員会

3月25日に筑波大学下田臨海実験センター第一研究棟3階演習室において英文誌編集委員会および和文誌編集委員会を合同で開催した。和文誌について堀口編集委員長より第45、46巻「藻類」の編集状況に関する報告があった。また、英文誌については川井編集長から「Phycological Research」の編集状況および年間投稿状況の報告があった。学会ホームページの管理を和文誌編集委員会の実行委員に担当してもらうことが話し合われた。

評議員会を引き続き同室においておこなった。1998年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関しての審議をおこなった。内容に関しては総会の項を参照されたい。また、日本藻類学会論文賞の選考を現行の1月下旬（英文誌の4号が出版された後）におこなうと

時間的に余裕がないことが明らかになったため、次回からは12月に変更することが提案され承認された。このため1998年度の受賞対象論文は英文誌、和文誌共に1号～3号までの中から選出することとなった。また来年度からは英文誌は前年度の4号～当該年度の3号まで、和文誌は当該年度の1号～3号までの中から選出することになる。本年度の選考は12月に第一回目の投票をおこない、年が明けてから第二回目の投票をおこなうことが承認された。その他、受賞決定までの詳細な事項については事務局に一任された。2000年から国際植物命名規約上で効力を発する予定の学名の登録制度に関し、「Phycological Research」を国際植物分類学連合認定雑誌にするための申請手続きを進めることとなった。

増加するバックナンバーの保管場所について、および論文賞以外の賞の制定については、共に継続審議することとなった。合同編集委員会・評議員会開催にあたっては横濱康継氏を始めとする筑波大学の関係者に大変お世話になった。記してお礼申し上げます。

3. 1998 年度総会

1998年3月26日午後2時30分よりA会場において総会を開催した。石川依久子会長の挨拶の後、猪川倫好氏（筑波大学）を議長に選出し議事に入った。

【報告事項】

●庶務関係

(1)会員状況（1997年12月31日現在）：名誉会員2名、普通会員577名、学生会員56名、団体会員57名、賛助会員12名、外国会員100名（27カ国）、国内購読26件。(2)1997年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は1,230,000円であった。(3)第21回大会を1997年3月26日～28日に広島大学理学部にて開催した。(4)評議員会を1997年3月26日に、総会を翌27日に広島大学にて開催した。(5)臨時評議員会を1997年9月20日に東邦大学で開催した（詳細は「藻類」45巻3号208頁の学会録事を参照のこと）。(6)1997年12月に会員名簿発行のための調査を実施した。(7)1997年11月に日本藻類学会のホームページを作成・公開した（アドレスは<http://www.kurcis.kobe-u.ac.jp/sorui/>）。ホームページのデザインおよび管理を州崎敏伸会員（神戸大学理学部）にお願いした。(8)卒業後退会届を提出しない学生会員、普通会員への変更届を提出しない学生会員が毎年みられ、会計管理上大きな障害となっていることが報告された。学生会員に対し事前の注意が喚

起され、また教官に対しては学生への適切な指導が要請された。また、12月31日をもって学生会員を更新しなかった会員に対しては、更新もしくは普通会員への変更届が提出されるまで雑誌を送付しないことが報告された。

●会計関係

(1)1998年3月16日現在の会費納入率は、普通会員95%、学生会員71%、賛助会員83%、団体会員95%、外国会員85%であった。(2)その他の事項に関しては審議事項参照のこと。

●編集関係

(1)1997年度に発行した和文誌「藻類」第45巻1～3号は、総頁数214頁。内訳は原著論文・短報6編、総説1編、研究技術紹介4編その他。(2)1997年度に発行した英文誌「Phycological Research」第45巻1～4号は、総頁数247、掲載論文35編であった。

【審議事項】

●庶務関係

(1)以下の1998年事業計画が承認された：1)第22回大会・評議員会・総会（筑波大学下田臨海実験センター・下田東急ホテル）の開催、2)第1回日本藻類学会論文賞の授与、3)和文誌「藻類」46巻1～3号の発行および別冊（昨年度共催した「アジア地域の微生物研究ネットワークに関するシンポジウム」のプロシーディングス）の発行、4)会員名簿の発行、5)会長および評議員選挙の実施。(2)秋季シンポジウムは総会時点では開催案がなかったが、「藻類」2号の記事に間に合う時点で開催希望があれば、その決定を持ち回り評議員会に委ねることが了承された。(3)1999年度以降の「Phycological Research」の出版契約は、編集および英文校閲の質の高さ、海外販売プロモーションの良さから、Blackwell社と継続契約する方向で話を進めていくことが了承された。(4)学会ホームページを管理するため、和文誌編集委員会の実行委員を1名増やすことが了承された。(5)学会に対する今日までの功績に対し千原光雄氏が名誉会員に推挙され承認された。

●会計関係

(1)1997年度一般会計決算報告および同監査報告は表-1の通り承認された。(2)1997年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表-2の通

表-1. 1997年度一般会計決算（1997.1.1～1997.12.31）

収入の部（円）		支出の部（円）	
会費	4,661,406	和文誌印刷・発送費	1,679,679
普通会员	3,605,000	印刷代	1,234,149
学生会員	210,000	別刷代	275,710
外国会員	400,406	発送費	169,820
団体会員	396,000	英文誌印刷・発送費	4,669,356
賛助会員	50,000	編集費	226,783
販売	338,640	編集補助費	144,581
定期購読	261,000	通信連絡費	77,393
バックナンバー	77,640	事務用品費	4,809
別刷代	265,769	庶務費	538,953
超過頁負担金	0	事務用品費	33,347
広告代	60,000	会議費	55,074
受取利息	2,351	通信・印刷費	199,532
文部省刊行助成金	1,230,000	諸雑費	251,000
英文誌還付金	0	幹事旅費補助	4,000
雑収入	3,000	事務補助	150,000
寄付金	751,250	第21回大会補助費	120,000
		自然史学会連合分担金	0
小計	7,312,416	小計	7,388,771
前年度繰越金	7,320,247	次年度繰越金	7,243,892
合計	14,632,663	合計	14,632,663

貸借対照表（1997.1.1～1997.12.31）

借方（円）		貸方（円）	
普通預金（第一勧業、京都-1）	2,276,127	未払金	400,000
普通預金（第一勧業、京都-2）	1,113,742	前受会費	2,534,811
普通預金（第一勧業、品川）	1,231,000	次年度繰越金	7,243,892
普通預金（山陰合同、松江）	167,017	前年度繰越金	7,320,247
郵便振替口座（品川）	1,655,217	当期余剰金	-76,355
郵便振替口座（松江）	3,113,890		
現金（品川）	448,174		
現金（札幌）	173,536		
合計	10,178,703	合計	10,178,703

表-2. 1997年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算（1997.1.1～1997.12.31）

収入の部（円）		支出の部（円）	
受取利息	6,219		0
小計	6,219	小計	0
前年度繰越金	2,574,780	次年度繰越金	2,580,999
合計	2,580,999	合計	2,580,999

貸借対照表 (1997.1.1 ~ 1997.12.31)

借方 (円)		貸方 (円)	
定期預金 (住友、京都)	1,900,000	次年度繰越金	2,580,999
普通預金 (住友、京都)	673,587	前年度繰越金	2,574,780
現金	7,412	当期余剰金	6,219
合計	2,580,999	合計	2,580,999

日本藻類学会 1997 年度決算報告書に対し記名捺印する

1998 年 2 月 25 日

会 長 石川依久子 印

会計幹事 田中 次郎 印

決算書が適正であると認める。

1998 年 2 月 25 日

会計監査 岡崎 恵視 印

会計監査 片山 舒康 印

表-3. 1998 年度一般会計予算案 (1998.1.1 ~ 1998.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	5,026,500	和文誌印刷・発送費	1,970,000
普通会員	3,521,700	印刷代	1,500,000
学生会員	252,000	別刷代	250,000
外国会員	432,000	発送費	220,000
団体会員	604,800	英文誌印刷・発送費	5,655,600
賛助会員	216,000	編集費	450,000
販売	340,000	編集補助費	150,000
定期購読	270,000	通信連絡費	200,000
バックナンバー	70,000	事務用品費	100,000
別刷代	250,000	庶務費	540,000
超過頁負担金	0	事務用品費	50,000
広告代	120,000	会議費	40,000
受取利息	2,500	通信・印刷費	300,000
文部省刊行助成金	1,230,000	諸雑費	150,000
英文誌還付金	50,000	幹事旅費補助	40,000
雑収入	0	事務補助	150,000
寄付金	500,000	第22回大会補助費	120,000
		秋季シンポジウム補助金	50,000
		自然史学会連合分担金	20,000
小計	"7,519,000"	小計	8,995,600
前年度繰越金	"7,243,892"	次年度繰越金	5,767,292
合計	"14,762,892"	合計	14,762,892

表-4. 1998 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算案 (1998.1.1 ~ 1998.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
受取利息	6,000	論文賞賞状代	10,000
小計	6,000	小計	10,000
前年度繰越金	2,580,999	次年度繰越金	2,576,999
合計	2,586,999	合計	2,586,999

り承認された。(3)1998年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表-3および表-4の通り承認された。(4)1999年度より次のように会費値上げすることが了承された：個人会員8,000円，学生会員5,000円（一年毎に更新すること），海外会員7,000円（学生会員は5,000円），団体会員15,000円，賛助会員30,000円。(5)総会時，経済的に豊かでない国の会員について会費を据え置くことができないかという発言があった。これについては継続審議することになった。

【日本藻類学会論文賞授与】

第一回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれた。これは1997年度に出版された「藻類」および「Phycological Research」の中から，規定により審査員の投票によって選ばれたもので，総会前日に開催された編集委員会および評議員会で了承を受けたものである。今回の投票では，最高得票数を得た論文が2編あったため，以下の2論文の著者（本会会員である2名）に賞状が授与された。

・Taxonomic notes on the Halymeniaceae (Gigartinales, Rhodophyta) from Japan. III. Synonymization of *Pachymeniopsis Yamada* in Kawabata with *Grateloupia*

C. Agardh. (受賞者：川口栄男氏)

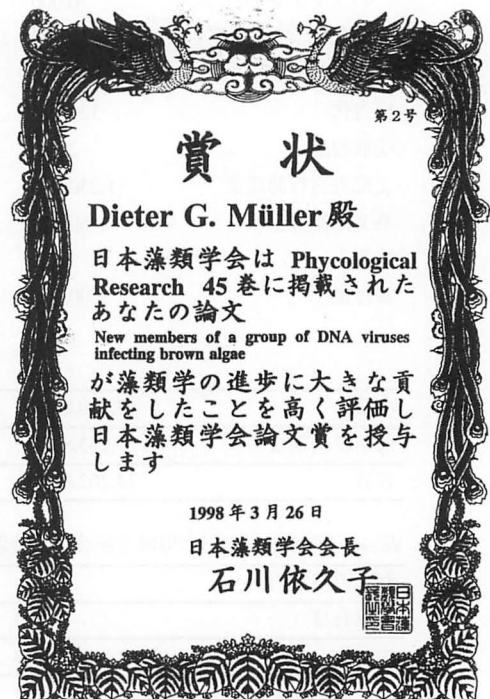
・New members of a group of DNA viruses infecting brown algae (受賞者：Dieter G. Müller氏)

あいにく当日は両受賞者とも欠席であったため，賞状は後日郵送された。

4. 植物分類学関連学会連絡会議

表記の第6回会合が1997年9月20日に東邦大学理学部で開催された。藻類学会からは真山茂樹代表幹事が出席した。代表が出席した他の学会は種生物学会，植物地理・分類学会，植物分類地理学会，地衣類研究会，日本菌類学会，日本植物分類学会，日本蘚苔類学会であった。各学会より募集してきた合同名簿掲載希望者のデータの編集作業に入ることが報告された。また，学会間で雑誌を交換することが話し合われたが，本学会は交換によって得た他学会誌を有効に活用できる保管場所がないことから，雑誌の受け取りはお断りした。しかし，「藻類」の受け取りを希望する学会があれば喜んで送付する旨を返答をした。

第7回の会合が1998年3月20日に富山青少年科学館で開催された。本学会からは代表幹事の代理として富山大の渡辺信会員が出席した。出席した他の学会は



日本藻類学会論文賞の賞状

種生物学会、植物地理・分類学会、植物分類地理学会、地衣類研究会、日本植物分類学会、日本蘚苔類学会であった。本連絡会に日本珪藻学会の参加が報告された。「植物分類学関連学会合同名簿」が1998年1月に完成したとの報告があった。また、本年9月に開催される日本植物学会大会（広島大学）でおこうシンポジウム「地衣類、その分類学の現状と将来」を「植物分類学関連学会連絡会企画シンポジウム2」として各学会が後援する方向で調整することになった。

5. 秋季シンポジウムについて

本年3月の総会時点では、秋季シンポジウム開催内容が未決定であったが、その後石川依久子氏と大野正夫氏より「海産植物資源の活用 - 現況と国際的展望 -」と題するシンポジウムをマリンバイオテクノロジー学会と国際海藻協会日本支部との共催で開きたいとの申し出があった。この件につき持ち回り評議員会をおこなった結果、賛成多数で同シンポジウムを本学会の秋

季シンポジウムとすることに決定した。

6. 会則の改訂

1998年3月26日に開催された日本藻類学会総会の決議に従い、以下のように会則を改定する。

<新会則>

第8条 1.国内会員は年会費8,000円（学生は5,000円）を前納するものとする。但し、名誉会員（次条に定める名誉会長を含む）は会費を要しない。外国会員の会費は7,000円（年間）（学生は5,000円）とする。会長の承認を得た外国人留学生は帰国前に学生会費の10年分を前納することができる。団体会員の会費は15,000円とする。賛助会員の会費は一口30,000円とする。

(付則)

第6条 本会即ち1999年1月1日より改正施行する。



表紙写真

大黒島の海岸風景（写真；堀口健雄）

大黒島は道東の厚岸湾に浮かぶ島である。ここを訪れて、海面に顔を出す鬱蒼としたコンブの林の上にオオセグロカモメが羽を休めているのを見た時には「北の海だなあ」と実感したものである。本号にはナガコンブの光合成特性と静内町付近の採集地案内という北の海藻に関する論文・記事が掲載されている。そこで表紙も北の海岸風景に飾ってもらうことにした。ちなみにこの写真でも遠くに見える岩の上にカモメがとまっている（矢印）。

(T.H.)